



## 平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成22年7月26日

上場会社名 株式会社アクセル 上場取引所 東  
 コード番号 6730 URL <http://www.axell.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 譲 (TEL) 03(5298)1670  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 千代 進弘 配当支払開始予定日 -  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月10日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第1四半期の業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	1,738	△55.7	125	△92.7	130	△92.5	79	△92.5
22年3月期第1四半期	3,928	18.8	1,731	21.5	1,735	21.1	1,067	21.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第1四半期	6.41	—
22年3月期第1四半期	8,612.61	8,610.53

(注) 平成21年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。なお、当該株式分割が平成22年3月期期首に行われたと仮定した場合の1株当たり四半期純利益は86円12銭、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は86円10銭となります。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第1四半期	13,554	12,523	92.4	1,009.73
22年3月期	15,850	13,562	85.6	1,093.51

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 12,523百万円 22年3月期 13,562百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	80.00	—	90.00	170.00
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期（予想）	—	80.00	—	80.00	160.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

平成22年3月期期末配当金の内訳は、普通配当80円00銭、記念配当10円00銭となっております。

### 3. 平成23年3月期の業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	6,000	△22.6	1,550	△52.3	1,555	△52.3	980	△51.2	77.96
通期	15,000	△3.2	4,740	△23.7	4,750	△23.7	2,930	△23.7	233.09

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	12,570,000株	22年3月期	12,570,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

23年3月期1Q	167,748株	22年3月期	167,748株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期1Q	12,402,252株	22年3月期1Q	123,976株
----------	-------------	----------	----------

(注) 平成21年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 継続企業の前提に関する注記	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
4. 補足情報	8
(1) 生産、受注及び販売の状況	8
(2) 最近における四半期毎の業績の推移	9

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、政府の緊急経済対策をはじめとする景気刺激策に一定の効果が見られたことや海外経済の改善に牽引される形で輸出が増加するなど、一部に景気回復の兆しが見られました。しかしながら、欧州の財政問題による信用収縮や円高傾向が続く不安定な為替相場の影響、少子高齢化による内需の縮小傾向等を背景に、企業の設備投資や雇用情勢は引き続き厳しく、先行き不透明な状況が続いております。

また、当社が属する電気機器業界におきましては、アジアをはじめとする新興国の旺盛な需要を背景にした輸出の増加や政府によるエコポイント制度等の各種内需の底上げ政策の効果などにより、景気はわずかながらも持ち直してまいりました。

現在当社事業の中心的市場である遊技機器市場（注1）につきましては、1円パチンコ等の低貸玉営業が定着したこと等により、減少傾向にあった遊技人口が増加に転じたことや過年度における規則改正の影響により、厳しい状況が続いていたパチスロ機の分野において若干の回復傾向が見られるなど、一部に明るい兆しも見えております。しかしながら、遊技機器市場全体としては、遊技場の店舗数や遊技機器設置台数の減少等が更に進むなど、引き続き厳しい状況が続いております。更に、遊技機器における一部の有力機種への需要の集中や、需要の集中に伴う一部遊技機器メーカーの製造計画台数未達による遊技機器構成部品の在庫調整など、当第1四半期は当社事業環境としては非常に厳しい状況下での推移となりました。

かかる環境の中で当社は、遊技機器の搭載液晶の大型化に対応したグラフィックスLSI（注2）製品「AG301」及びグラフィックス機能、サウンド機能、LED（注3）コントロール機能等複数の機能をワンチップに統合化したLSI製品「AG333」を中心にサウンドLSI（注4）製品、LEDドライバLSI製品、メモリモジュール（注5）製品等の各種製品の販売に注力いたしました。

遊技機器市場に向けたグラフィックスLSI製品に関しましては、前年同四半期における中核製品であった「AG301」から機能統合LSI「AG333」への移行が着実に進展しておりますが、当第1四半期は、当初の想定どおり厳しい状況での推移となり、当社グラフィックスLSI製品の販売数量は、前年同四半期に比較して41万個減の29万個の販売にとどまりました。同市場向けサウンドLSI製品に関しましては、機能統合化製品の販売や顧客の需要動向の影響により、その他遊技機器市場向け製品につきましては、いずれも顧客の需要動向の影響により前年同四半期に比較して販売数量が減少いたしました。一方、遊技機器市場以外の組み込み機器市場（注6）向けグラフィックスLSI製品につきましては、産業用機器を中心とする各種組み込み機器の在庫調整が一巡したことなどを受けて、前年同四半期を上回る販売となりました。

以上の結果、当第1四半期の売上高は1,738百万円（前年同期比55.7%減）となりました。

売上総利益に関しましては、上記要因による売上高の減少と販売製品構成の変動による売上総利益率の低下等を要因として前年同四半期と比較して60.1%減少となる937百万円となりました。

また、販売費及び一般管理費に関しましては、今後の成長を見据えた積極的な研究開発投資等により前年同四半期に比較して研究開発費が35.6%増加し、販売費及び一般管理費全体として前年同四半期との比較で31.4%の増加の811百万円となりました。

以上により、営業利益は125百万円（前年同期比92.7%減）、経常利益は130百万円（前年同期比92.5%減）、当四半期純利益は79百万円（前年同期比92.5%減）となりました。

（注1）「遊技機器市場」とは、パチンコ機及びパチスロ機等の製造に係る市場を意味しています。

（注2）「グラフィックスLSI」とは、液晶表示装置等に表示を行うためのLSIを意味しています。

（注3）「LED」とは、Light Emitting Diodeの略称です。導電することで発光する半導体素子を意味しており、発光ダイオードとも言われています。

（注4）「サウンドLSI」とは、デジタル化された音声データを再生するためのLSIを意味しています。

（注5）「メモリモジュール」とは、遊技機器の画像表示用基板に搭載される画像データを保持しておく部分の仕組みを意味しています。

（注6）「組み込み機器市場」とは、「広義の組み込み機器の中から遊技機器を除いたその他の機器の製造に係る市場」として使用しています。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

#### ①当第1四半期末の資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の資産合計は、前年同四半期末との比較で218百万円増加となる13,554百万円（前年同期比1.6%増）となりました。主な要因は、前年同四半期以降における事業活動の結果得られた現金及び預金の増加（778百万円）や当第1四半期末月の売上高が前年同月比で減少したことによる売掛金の減少（326百万円）等によるものであります。

当第1四半期末の負債合計は、前年同四半期末との比較で534百万円減少となる1,031百万円（前年同期比34.1%減）となりました。主な要因は、買掛金の増加（159百万円）及び未払法人税の減少（619百万円）によるものであります。

当第1四半期末の純資産合計は、前年同四半期末との比較で753百万円増加となる12,523百万円（前年同期比6.4%増）となりました。主な要因は、利益剰余金の増加（744百万円）等によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期末における営業活動により支出した資金は1,576百万円となりました。

これは主に、当第1四半期における税引前四半期純利益（128百万円）に対し、法人税等の支払（1,130百万円）や売上債権の増加（442百万円）及び仕入債務の減少（182百万円）、たな卸資産の減少（122百万円）等によるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期末における投資活動により支出した資金は1百万円となりました。

これは、有形固定資産の取得による支出（1百万円）によるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期末における財務活動により支出した資金は1,030百万円となりました。

これは主に、配当金の支払（1,030百万円）によるものであります。

以上の結果、当第1四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べて2,609百万円減少となる10,700百万円となりました。

## （3）業績予想に関する定性的情報

当社第16期第1四半期の業績は、概ね当初計画通りの推移となっており、平成22年4月26日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

## 2. その他の情報

### （1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①法人税等の計上基準につきましては、法定実効税率をベースとした年間予想税率により計算しております。

②たな卸資産に関して、実地たな卸を行わず帳簿たな卸により算定しております。

### （2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。この変更に伴う損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,700	9,309
売掛金	1,785	1,342
有価証券	3,999	3,999
商品及び製品	209	331
原材料及び貯蔵品	0	1
その他	198	192
流動資産合計	12,895	15,178
固定資産		
有形固定資産	229	239
無形固定資産	219	219
投資その他の資産	210	213
固定資産合計	659	672
資産合計	13,554	15,850
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	541	723
未払法人税等	56	1,155
その他	421	409
流動負債合計	1,019	2,288
固定負債		
資産除去債務	7	—
その他	5	—
固定負債合計	12	—
負債合計	1,031	2,288
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,018	1,018
資本剰余金	861	861
利益剰余金	11,225	12,262
自己株式	△600	△600
株主資本合計	12,505	13,541
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17	20
評価・換算差額等合計	17	20
純資産合計	12,523	13,562
負債純資産合計	13,554	15,850

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	3,928	1,738
売上原価	1,579	801
売上総利益	2,348	937
販売費及び一般管理費	617	811
営業利益	1,731	125
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	1	1
雑収入	0	0
営業外収益合計	4	4
営業外費用		
株式交付費	0	—
固定資産除却損 為替差損	—	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	1,735	130
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	1
特別損失合計	—	1
税引前四半期純利益	1,735	128
法人税等	667	49
四半期純利益	1,067	79

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	1,735	128
減価償却費	63	54
長期前払費用償却額	0	0
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	1
受取利息及び受取配当金	△4	△3
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,426	△442
たな卸資産の増減額 (△は増加)	214	122
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	0	△5
仕入債務の増減額 (△は減少)	122	△182
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△346	△62
未払消費税等の増減額 (△は減少)	46	△60
その他	—	0
小計	407	△449
利息及び配当金の受取額	4	3
法人税等の支払額	△1,135	△1,130
営業活動によるキャッシュ・フロー	△724	△1,576
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△135	△1
無形固定資産の取得による支出	△58	—
その他	△0	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△194	△1
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の処分による収入	7	—
リース債務の返済による支出	—	△0
配当金の支払額	△963	△1,030
財務活動によるキャッシュ・フロー	△956	△1,030
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,874	△2,609
現金及び現金同等物の期首残高	11,796	13,309
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,921	10,700



(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

#### 4. 補足情報

##### (1) 生産、受注及び販売の状況

###### ①生産実績

当第1四半期累計期間の生産実績は次のとおりであります。

区分	当第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	前年同期比 (%)
遊技機器市場向LSI製品 (百万円)	1,367	40.9
組み込み機器市場向LSI製品 (百万円)	83	631.8
その他 (百万円)	16	33.5
合計 (百万円)	1,467	43.0

- (注) 1. 金額は販売価額によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

###### ②受注実績

当第1四半期累計期間の受注実績は次のとおりであります。

区分	当第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)			
	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
遊技機器市場向LSI製品	2,299	68.5	3,254	93.7
組み込み機器市場向けLSI製品	62	2,173.9	65	561.7
その他	6	21.7	0	6.4
合計	2,368	69.9	3,321	94.9

- (注) 1. 金額は販売価額によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

###### ③販売実績

当第1四半期累計期間の販売実績は次のとおりであります。

区分	当第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	前年同期比 (%)
遊技機器市場向LSI製品 (百万円)	1,651	42.4
組み込み機器市場向LSI製品 (百万円)	79	495.8
その他 (百万円)	7	41.8
合計 (百万円)	1,738	44.3

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2. 前第1四半期累計期間及び当第1四半期累計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第1四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)		当第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
緑屋電気株式会社	3,584	91.2	1,663	95.7

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 最近における四半期毎の業績の推移

平成23年3月期

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	第1四半期 22年4月～22年6月	第2四半期 22年7月～22年9月	第3四半期 22年10月～22年12月	第4四半期 23年1月～23年3月
	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	1,738	—	—	—
売上総利益	937	—	—	—
営業利益	125	—	—	—
経常利益	130	—	—	—
税引前四半期純利益	128	—	—	—
四半期純利益	79	—	—	—
1株当たり四半期純利益	6円41銭	—	—	—
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
	百万円	百万円	百万円	百万円
総資産	13,554	—	—	—
純資産	12,523	—	—	—
1株当たり純資産	1,009円73銭	—	—	—

平成22年3月期

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	第1四半期 21年4月～21年6月	第2四半期 21年7月～21年9月	第3四半期 21年10月～21年12月	第4四半期 22年1月～22年3月
	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	3,928	3,824	4,146	3,595
売上総利益	2,348	2,200	2,352	1,972
営業利益	1,731	1,518	1,738	1,222
経常利益	1,735	1,521	1,743	1,225
税引前四半期純利益	1,735	1,521	1,743	1,225
四半期純利益	1,067	942	1,073	757
1株当たり四半期純利益	86円12銭	75円98銭	86円52銭	61円08銭
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
	百万円	百万円	百万円	百万円
総資産	13,335	15,215	14,680	15,850
純資産	11,769	12,715	12,792	13,562
1株当たり純資産	948円97銭	1,025円22銭	1,031円44銭	1,093円51銭

(注) 当社は、平成21年7月1日付をもって1株につき100株の割合で株式分割を行っております。なお、1株当たり四半期純利益及び1株当たり純資産は、期首に分割が行われたものとして計算しております。